

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101109		
法人名	北商 株式会社		
事業所名	ライフケア中央倶楽部		
所在地	札幌市中央区北7条西12丁目11-2		
自己評価作成日	平成22年3月29日	評価結果市町村受理日	平成22年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がお自分の家にいるような感覚をもってもらえるよう家庭的環境を心がけています。スタッフは、親しみやすい関係を築けるよう努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170101109&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170101109&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年5月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ライフケア中央倶楽部は、JR・地下鉄札幌駅から徒歩15分程と札幌の中心部に位置し、近隣には大型スーパーがあり買い物に便利である。また、近くには小公園もあり、歩いて数分のJR高架下通りは樹木が美しく、夏場は利用者の毎日の散歩コースとなっている。法人の方針で、高齢者が馴染みやすい懐かしく落ち着いた建物が望ましいとのことから、予備校の寮を最小限に改造した建物で、内部は全体が家庭的な造りで明るく開放的である。1階と2階に団楽の場所があり、利用者は好きな場所でその時々を自由に過ごすことができ、段差や階段は生活上のリハビリに役立っている。管理者と職員の見守りのもとで、利用者は可能な限り今までの生活習慣を変えないで過ごすことができるので、表情は明るく笑顔も絶えない。運営に関する職員の意見が反映されることもこの事業所の特徴で、職員は運営に関しての意見がある時はチーフや管理者を通じて本部に連絡するが、職員が直接本部に電話で相談することもある。本部では、毎月25日までに職員の都合を聞いて翌月の勤務体制を決定している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基とし、スタッフ間で思いを共有して確認しあっています。	基本理念は法人共通で、地域密着型サービスの意義をふまえた内容である。基本理念に加えて事業所独自の介護理念も作成し、いずれも共用空間に掲示している。基本理念は2週に1度のスタッフミーティングの場で全職員で確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しお祭りなどの行事に参加をし近隣住民と顔なじみになっています。	町内会の行事は少ないが、日常の散歩の際に周辺のごみを拾うなどの自主活動を行っている。近隣の方々とは、札幌祭りの時に神輿を見物しやすい場所を用意してくれたり、山菜を届けてくれるなどの温かい気遣いをしてもらっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議題に認知症について取り上げ話し合いをしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た話をスタッフミーティングで取り上げ話し合っています。	運営推進会議は、主に民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て、サービス評価などを議題として3ヶ月に1度開催しているが、最近では利用者家族、町内会の参加は少ない。	2ヶ月に1度の開催を目標として、開催日時や議題の工夫により、利用者家族、町内会の参加を得られるよう期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市主催の連絡会や研修会に参加している。	法人本部の担当者が市の担当者と定期的に連絡を取っている。また、地域包括支援センターの担当者には毎回運営推進会議に参加してもらっており、日常的に何でも相談できる関係である。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い拘束のない介護が行われています。夜間は、防犯上玄関の施錠をしています。	毎年、内部研修で身体拘束について繰り返し学習しているので、全職員が身体拘束をすることの弊害を理解している。玄関の施錠については、日中は行っていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の人格に最大限尊重し介護しています。		

ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者は、現在いないが運営推進会議にて包括センター様より情報を頂スタッフに説明しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で十分な説明をした後に書面にて契約しております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望箱を設置したり、直接電話やお話を聞き運営に反映させるよう努めています。	職員は日常的に利用者の要望や意見を引き出すよう努力しており、家族には機会あるごとに電話をして、出された意見は運営に反映させるようにしている。重要事項説明書には外部の苦情申し立て機関も明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は意見交換が自由にできている。月2回本社会議にて又それ以外は電話連絡にて意見を伝えていきます。	職員は運営に関しての意見がある時はチーフや管理者を通じて本部に連絡するが、職員が直接本部に電話で相談することもある。本部では、毎月25日までに職員の都合を聞いて翌月の勤務体制を決定している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格希望者には、シフト調整をしたり、昇給を検討し支援しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修スケジュールをたて取り組んでいます。又外部研修も必要と思われる研修を随時提案し参加させています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加したり、と事業への見学又見学受け入れして交流を深めています。		

ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には把握しきれない事も多々あるが、利用開始前にケアマネ等がご家族等に聞き取りをして関係作りに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様とよく話し合い利用後は利用状況等をお知らせしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様に必要な支援をケアマネ・スタッフで考えご家族、ご本人に提案し支援しています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は共に行いその中で関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の家族関係に配慮し面会や電話にて協力を得ています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのご友人の面会を積極的に受け入れています。	入所時に、家族等から利用者の交友関係などを聞き取り、事業所の方からこれまでの関係が引き続き継続できるよう家族等に協力をお願いしている。知人・友人も時折利用者を訪問している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良くお話されており、他の利用者様を手助けされる事もあります。		

ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所にいたるケースが多いが再入所や次の受入先の支援に努めています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度のアセスメント以外にも、日々の会話の中で希望、意向の把握に努めています。	職員は、家族や関係者からの情報をもとに、毎日の生活の場で、利用者の会話やしぐさから一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活を細かく聞き取りしています。特に家族関係、家計図について力を入れています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を中心にその日その日の体調を見ながら把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度カンファレンスを行っている。全員そろえるのは難しいので面会時を利用し聞き取りしています。	家族や医療機関等の情報、3ヶ月ごとのカンファレンスを中心とした職員の意見をもとに計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月ごとに見直し、状況に応じて随時見直しを行い、利用者あるいは家族の署名捺印を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフミーティング、申し送りノート等を活用し情報を共有しモニタリングしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の外泊などに加えて、ご家族が泊まりに来るなどについても対応しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入して地域を知ることに取り組んでいます。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人ご家族の希望を尊重しています。	協力医療機関の内科・歯科の医師が訪問診療してくれるが、従来からのかかりつけ医の継続は自由である。事業所は車で通院支援を行い、医療情報は家族と共有している。	

ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、利用者様の些細な情報も伝え看護職員が適切な看護支援できるよう努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院状況や退院の受入など医療機関と連絡を取り合い支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについてご家族と事業所、医療機関の三者で協議しできる事を共通認識し努めるよう心がけています。	利用開始時に、利用者・家族に対して「重度化した場合の対応に係わる指針」をもとに説明している。状況が変化した際は、医療機関の意見を聞きながら都度段階的に話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて救命講習を今年全員受講する予定です。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で災害対策の議題を話し合い避難訓練等へ活かしています。	年2回、夜間と日中を想定した避難訓練を自主訓練として実施し、災害時の避難場所の提供を近隣の方々にもお願いしている。職員の救急救命訓練も、法人本部の主導で随時受講している。	消防署の協力を得て行う非難訓練の実施、各居室ストーブの床暖房への切り替え、2階非常口の新設をそれぞれ検討しているとのことなので、その取り組みに期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗なども他の利用者様にきずかれないよう心がけています。利用者様同士のいざこざについてはスタッフが間に入りトラブルを回避しています。	プライバシーについては内部研修で学び、普段の言葉かけや対応に注意している。特に排泄の失敗には、それとなくトイレへの誘導や居室で対応し、利用者の羞恥心に配慮している。また、個人情報に関する記録は事務所で安全に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも本人の希望を確認しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や天候によって予定も変わるので、その人に合わせた対応をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にご自分で行ったり、行けない方には訪問美容士を紹介したりしています。又マニキュアを塗って上げたりおしゃれの支援をしています。		

ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立に、入居者の希望や季節感を取り入れおいしく食べてもらえるよう努めています。	食事の手伝いは利用者が自主的に参加するのを見守り、食器拭き、テーブル拭きなど職員と一緒に後片付けを行っている。食事中は職員も共に食卓につき、自由な雰囲気の中で会話を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者を利用してカロリー等を考えてもらっています。又水分チェックも行っています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後声がけしています。できない人には支援しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日中おむつを使用するのではなく夜間のみ使用するケースなど日中はスタッフの声がけ誘導にて自立に向け支援しています。	利用者の排泄パターンを把握し、こまめな声かけやそれとなく促して排泄の自立に向けている。夜間にオムツを使用する場合は観察の記録をもとに、家族とも話し合い利用者本位に対応を検討している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食材に気を付けています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、本人の希望を聞き柔軟に対応しています。	週2回の入浴日を決め、朝食後から夕方までに全員の入浴を行っている。入りたがらない時は曜日を変更したり、夏季にはシャワー浴などを行い、利用者の希望に沿って対応をしている。また、時にはミカンの皮や入浴剤を使って楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見回り時、温度の確認、本人の希望(カイロやヒエビタ)を支援し良眠できるよう努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、スタッフの見守り支援のもと行っています。服薬セットも2回の確認を行い注意しています又受診後の服薬は前回と変わっていないか確認するよう努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	鉢植えでお花を育てられたり、喫煙もむりのない範囲で楽しまれています。		

ライフケア中央倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と話し合いスタッフ同伴で支援しています。	夏場は、買い物に出かけたり、近くの公園やJRの高架下の遊歩道を散歩したりして、外出の機会が多い。冬は車で大型店舗の買い物や雪まつりの見学、玄関前でキャンドルを楽しむなど、月に1回以上は外気に触れるように努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいを預かる場合もあるが基本はご自分で管理されています。又買い物時必要な方はスタッフ見守りのもとご自分で買物されています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、必要時に使用されています。手紙類は手助けを支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は常時つけており室内の温度を調整して過ごしやすい環境を提供しています。	予備校の寮を最小限に改造した共用空間は家庭的な造りで、明るく開放的である。1階と2階に団樂の場所があり、その時々のご過ごし方ができる。段差や階段は生活でのリハビリにもなっている。壁には利用者も参加して作り上げた野菜のオクラを利用して彩色した絵や押し花の作品が飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを開放し壁には写真、貼り絵などをディスプレイしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物を置いていただき、位牌や仏壇などをもってこられる方もいます。	居室には馴染みの家具類や置物が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。壁には利用者の馴染みがある皇室のカレンダーや写真を法人が用意し、時代を懐かしむような配慮もされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りやさりげない声かけで自立支援できるよう心がけています。		



目標達成計画

事業所名 ライフケア中央倶楽部

作成日：平成 22年 6月 15日

市町村届出日：平成 22年 6月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が2ヶ月ごとでは無く3ヶ月ごとの開催だった。又町内や家族参加が少ない。	今期は、2ヶ月ごとに開催したい。町内やご家族の参加を増やしたい。	年間スケジュールを作成し委員の皆様へ再度2ヶ月ごとの開催に協力を求めました。町内やご家族の方に協力を求めています。	今年度
2	35	消防立会いの避難訓練はしていない。(消防署に連絡や通報訓練の協力はしている)ストーブを灯油ストーブからセントラル又は床暖に検討	消防署とよく話し合い立会い訓練を実施したい。	防火管理者と消防署が話し合い実施に向け検討中。業者様とストーブを検討し今期中にセントラルに切り替えることが決定しました。又1階に非難口を一つ増やしました。	今年度
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。